

(2) 自閉的な子供

1. はじめに

緘黙^{かんもく}の子供と自閉的な子供とが、よく混同されることがある。緘黙の子供が、人に話しかけられても反応を示さず、無表情で、きわめて消極的であるために、自閉的な子供と間違いられると思われる。

ところで、自閉的な子供(自閉症)は、緘黙とは全く区別され、次のような状態像が見られるのが特徴である。

(1) 対人関係がうまくできない。

名前を呼んでも何の反応もなく視線も合わない。自分のからに閉じこもり、他の人との交流が少なく、無関心、無表情でひとり遊びが多い。他人のしぐさを模倣することもできない。

(2) 言語発達がおくれている。

コミュニケーションの目的に、言葉を使おうとしない。たまに使っても、人の問いかけにオーム返しをするだけで、意味のある会話をもてない。自分の要求は、言葉で表現せずに、人の手首をつかんで目的地に引っ張って行く行動に出る。

(3) 多動である。

いつも動きまわり落ち着きに欠ける。高い所へも平気でよじ登り、親が目を離すと勝手に家を出し、迷子になることもある。

(4) 同じ状態を固執する。

自分の思った通りに、きちんとしなければ気がすまない。ものの順序、置き方、歩く道順等は、常に一定(同一保持)であり、他人にこれを乱されるとかんしゃくを起こす。食事も自分の好きな物しか食べない。

(5) 記憶力がすぐれている。

車の種類、数字、道順、テレビのコマーシャル等をよく覚えている。

その他、場所を考えずに排泄したり、奇声を発する、においをかぐ等の特異な行動がみられる。

自閉的な子供の特徴については、1943年、米国の児童精神医学者カナーによって、早期幼児自閉症という概念で提起されて以来、多くの人々が注目し、自閉的な子供の発達の経過とその転帰が明

らかになってきている。最近では心理・社会的要因だけでなく、認知機能、言語機能といった、何らかの脳機能障害と見る人たちが多くなっている。

本事例では、現在継続中のものであるが、「自閉的な子供発見のためのチェックリスト」や「親子関係診断テスト」等の心理検査の活用によって子供の状態像を明らかにし、遊戯療法の結果から少しずつ変容していく姿を紹介したい。

2. 事例

(1) 主訴 自閉的な行動

(2) 対象 U. S 男子 3歳

(3) 問題の概要

- ① 昭和55年7月来所。話しかけても反応がなく、視線も合わない。
- ② 遊びが固定し、他のものには見向きもしない。従って、近所の子供と一緒に遊ぶことができない。
- ③ 言葉はあるが語い数はきわめて少なく、言葉の理解ができず会話にならない。
- ④ 福島医大神経精神科医に「自閉性症候群言語発達遅滞」と言われる。
- ⑤ 表情がなく行動が鈍い。手先無器用である。

(4) 資料・情報

① 生育歴

- ア. 胎生期・出産時には異常が認められない。
- イ. 出産時の体重は、4,000gで過重児である。
- ウ. 1歳半の時、言葉がない、まわりのことに関心を示さない等から、耳に異常があるのではないかと心配になる。保健所で相談を受け、耳に異常がないことがわかる。
- エ. 2歳の時、県精神衛生センターで相談を受ける。この時、福島県立医大の医師より「自閉性症候群」と言われる。脳波検査も実施するが、特別に異常が認められない。

② 家族構成及び家庭環境

- ア. 父：35歳、会社員、仕事熱心で日曜日も出勤し、本人との接触が少ない。
- ウ. 母：28歳、家事従事、感受性に乏しく子供の養育に関心がうすい。